東車塚古墳の三角縁神獣鏡ほか

ひがしくるまづかこふんのさんかくぶちしんじゅうきょうほか

文化財愛護シンボルマーク

名　称	三角縁神獣鏡（石釧２点、方格Ｔ字鏡1面、獣形鏡1面）	所 在 地	加古川市平岡町新在家 1224-7 加古川総合文化センター博物館
別　称	三角縁唐草文帯三神二獣鏡（石釧、方格Ｔ字鏡、変形七獣鏡）	所 有 者	加古川市教育委員会
数　量	1面（石釧2点、青銅鏡2面）	指　定	加古川市指定文化財
寸　法	径 21.4㎝	指定分類	考古資料
重　量	978g	指定名称	三角縁神獣鏡　附 石釧２点、方格渦文鏡１面、獣形鏡１面
材　質	青銅製	指定年月日	平成２(1990)年 10 月 11 日
時　代	古墳時代前期　４世紀		

三角縁神獣鏡（左上）、獣形鏡（左中）、方格Ｔ字鏡（左下）、石釧（右下）

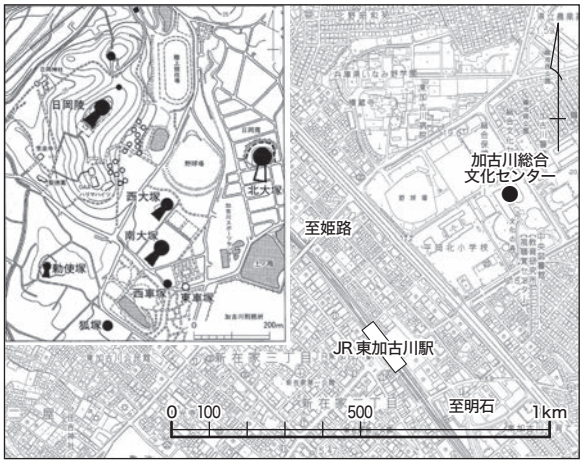
これらの考古資料は、東車塚古墳から出土した遺物です。東車塚古墳は、日岡山に所在する日岡山古墳群を構成する古墳です。現在、古墳は消滅しており、墳丘や埋葬施設などの詳細についてはほとんどわかっていませんが、昭和25（1950）年の土取り工事の際に、青銅鏡４面（このうち１面はその当時に放棄されたといわれています。）と、腕輪形石製品の一種である石釧２点が発見されました。

現存している青銅鏡は、三角縁神獣鏡（三角縁唐草文帯三神二獣鏡）、方格Ｔ字鏡、獣形鏡（変形七獣鏡）の３面です。鏡背に表現された図像や文様などから、三角縁神獣鏡は中国で製作されもの、方格Ｔ字鏡と獣形鏡は日本で製作されたものと考えられています。

なかでも注目されるのが、古墳時代前期の古墳の副葬品として特徴的な三角縁神獣鏡です。三角縁神獣鏡には、同じ鋳型あるいは原型によって製作されたもの（同笵鏡・同型鏡）が多く存在し、その分布状況から、ヤマト政権が地域首長に配布した貴重な器物と考えられています。東車塚古墳の三角縁神獣鏡と同笵のものは、神戸市東灘区のヘボソ塚古墳から出土しています。

一方の石釧は腕輪形石製品の一種で、いずれもその材質は緑色凝灰岩です。腕輪形石製品は、弥生時代の南海産の貝で作った腕輪を模して製作された古墳時代の石製品です。三角縁神獣鏡と同様に前期古墳の特徴的な副葬品で、ヤマト政権から各地の首長に配布された宝器的なものと考えられています。

これらのことから、東車塚古墳は古墳時代前期の古墳と考えられ、その被葬者はヤマト政権との密接な関係のなかで、三角縁神獣鏡や石釧といった貴重な器物を入手したと考えられます。これらの考古資料は、古墳時代における加古川下流域の様相を考えるうえでたいへん貴重なものです。



日岡山古墳群分布図及び展示場所

［各寸法及び重量］

三角縁神獣鏡：直径 21.4cm、重量 978 g
方格Ｔ字鏡：直径 9.1cm、重量 93 g
獣　形　鏡：直径 13.5cm、重量 248 g
石釧１：外径 7.1cm、内径 5.9cm、高さ 1.4cm、重量 35 g
石釧２：外径 7.2cm、内径 6.0cm、高さ 1.4cm、重量 34 g

（文・写真、計測／平尾）

●参考文献

「日本出土の方格Ｔ字鏡」松浦宥一郎（『東京国立博物館紀要』第 29 号、東京国立博物館、1994 年）
「東車塚古墳」西谷眞治（『加古川市史』第四巻史料編Ⅰ、加古川市、1996 年）
『考古資料大観』第５巻　車崎正彦編　小学館（2002年）
『副葬品の型式と編年』古墳時代の考古学４　一瀬和夫ほか編　同成社（2013 年）

●キーワード

古墳、日岡山古墳群、東車塚古墳、青銅鏡、三角縁神獣鏡、三角縁唐草文帯三神二獣鏡、方格Ｔ字鏡、獣形鏡、変形七獣鏡、腕輪形石製品、石釧、同笵鏡、同型鏡、ヘボソ塚古墳

三角縁神獣鏡（左）、石釧（右）

●出土地／加古川市加古川町大野 1677 付近

●所在地／加古川市平岡町新在家 1224-7
（保管場所）加古川総合文化センター博物館

●交　通／JR 神戸線「東加古川」駅から北へ徒歩 10 分
車は加古川バイパス「加古川東ランプ」から北東へ 1km

編集発行：加古川市教育委員会　文化財調査研究センター
平成 30 年 3 月 30 日（2018. 03. 30 ／ 1000）